

生活習慣病に対する薬物療法と生活習慣の相互作用



【中野キャンパス】薬学部 薬学科 准教授

山元 健太 Yamamoto Kenta

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

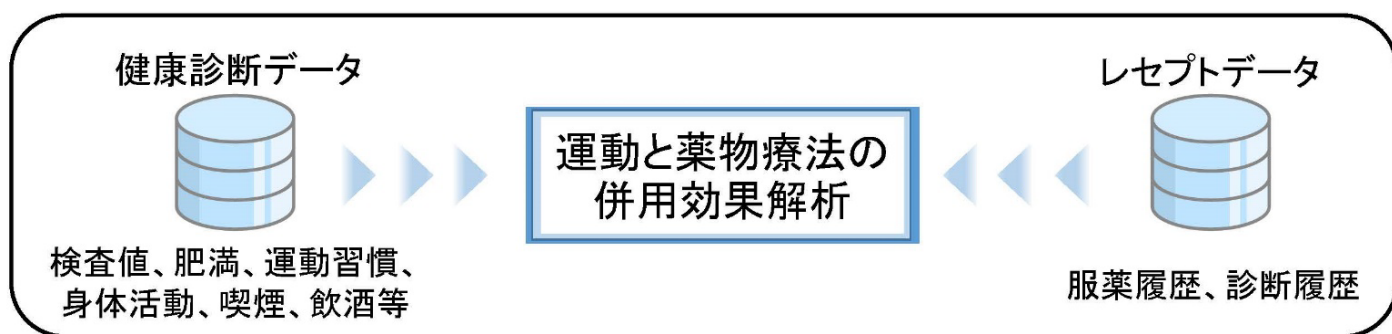
キーワード : 生活習慣・薬物療法・身体活動・運動・睡眠



研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

高血圧症、糖尿病、脂質異常症の薬物療法を受けている患者の中で、血圧、血糖、血中脂質の管理目標を達成している患者は約 50%にとどまっています。そこで、薬物療法を受けているにもかかわらず、管理目標を達成できていない患者の特徴を健康診断および診療レセプトデータの情報から抽出し、生活習慣をどのように改善すれば管理目標を達成する確率を上げることができるのか検討しています。さらに、どのような生活習慣と薬物療法との組み合わせが脳卒中や心疾患の予防に効果的なのかについて検討しています。



24,830 人の 2 型糖尿病の患者を調べたところ、体を動かすこと（身体活動）と一部の糖尿病治療薬を組み合わせると、血糖値の管理がより良くなることが分かりました。特に、SGLT2 阻害薬や DPP-4 阻害薬を服用している人では、薬だけの場合よりも、日常的に体を動かしている人のほうが血糖コントロールが良好でした。一方で、メトホルミンという別の薬では、体を動かしていても、薬だけの場合と比べて大きな違いは見られませんでした。この結果から、身体活動の効果は、使っている糖尿病の薬の種類によって異なる可能性があることが示唆されます。Yamamoto et al. Scientific Reports. In press.

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

現在、薬局では「健康サポート薬局」として、患者に処方薬を提供するだけでなく、患者の健康に関するサポートをおこなう社会的な役割が求められています。本研究テーマは薬物療法を受けている患者の健康指導に役立つ科学的知見を提供することを目的としていますが、生活習慣に合わせた効果的な薬物の選択にも貢献する可能性があります。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【科研費】

- ・基盤研究 (C) 「糖尿病患者の心不全予防に対する運動と SGLT2 阻害薬の併用効果」
- ・基盤研究 (C) 「糖尿病患者の血糖管理に対する運動と SGLT2 阻害薬の併用効果」

【論文】

- ・「Breakfast Skipping and Steroid Withdrawal in Ulcerative Colitis: A Population-Based Study in Japan.」